嘘をつくとき相手の目をみないかーアイトラッキングの分析結果ー

Does a person avert his gaze while lying?: Results of an eye tracking study

○仁平義明[1]，佐々木智未[2]，佐藤拓[3]
([1,2]白鷗大学)（[3]いわき明星大学)
E-mail:nihei@fc.hakuoh.ac.jp

【緒言】

冤罪事件の足利事件（1990）の取り調べで，地検検事は被疑者にこう言っている．

検事「君が真実ちゃんの事件違うって言うとき，僕と目をあわせないでしょう？　ん？」

検事の信念とはちがい，研究者たちは嘘と真実の発言で相手の目をみるかどうかに一貫した差はないことを確認してきた（Vrij,2008）．しかし，研究者たちが使った方法は，ビデオの観察などで，注視点の詳細な分析を欠くものがほとんどだった．本研究では，アイトラッカー（Tobii X120 Eye Tracker）を用いて，嘘と真実の話をしているときの注視点の分析を行った．

【方法】

対象者は，3.11 東日本大地震のとき，どこで何をしていたか，24インチのディスプレイに映った人物画像に向って話をするように求められた．顔は縦視角 11.9°×横視角 7.5°．顔画像は「ATR 顔画像表情データベース DB99：M09」を契約使用．独立変数は，①話の真実性（嘘の話・真実の話），②ディスプレイの人物の表情（真顔・笑顔）．①②ともに被験者間要因．対象者は大学生40人．２要因各２条件で各群10人．話はICレコーダによって録音された．

【結果】

（１）注視点の分析

話をしている間に画像の目の部分（眼角から眼角まで）を注視した回数について，真実性（嘘・真実）と表情（真顔・笑顔）を要因とする２要因の分散分析を行った．その結果，表情条件について有意に近い主効果が見られた（F（1, 36）＝3.868，p <.10）．真実性条件の主効果と２つの要因の交互作用は有意ではなかった（F（1, 36）＝.167，p ＝.686；F（1, 36）＝.398，p ＝.532）．

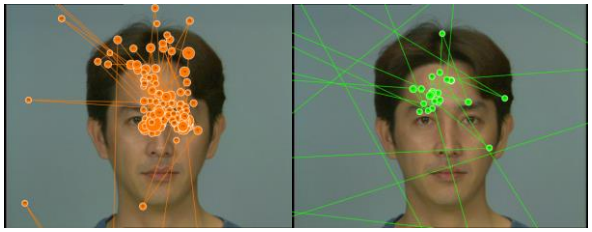

図１　実験参加者２名の注視点移動例：（左）（右）　ともに「嘘・真顔」条件．

（２）話の内容の分析

話の内容の種々の特徴について真偽と表情の二要因の分散分析を行った．そのうち「曖昧語の数」（“かなり”，“すごく”などの程度の副詞）について、真偽条件の有意な主効果が見られた（F（1, 36）=8.00，p <.01）．表情条件の主効果と２つの要因の交互作用は有意ではなかった（*それぞれ*，p ＝ .122，p ＝.726）．

【考察と結論】

結果は，研究者たちがより不確実な方法で主張してきた「嘘をついているときは相手を目を見るかどうか一貫した差はない」ことをより確実なアイトラッキングの分析で確認した．ただ，「真顔」（無表情ではない）は，真剣さを示しており，話し手の注視を引き出したといえる．

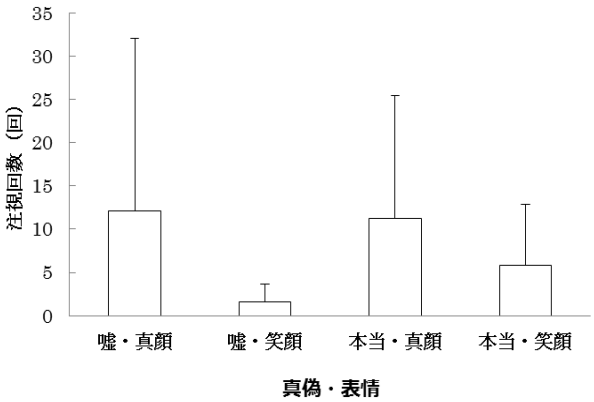

図２　話の真実性条件と表情条件による目への注視回数のちがい